

# 令和 2 年 第 8 回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和 2 年 8 月 21 日（金）

2 招集場所 大河原町役場 第 1 会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 八島良隆、学校教育専門監 山家一博

5 開 会 午後 2 時

6 令和 2 年第 7 回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 |（委員全員に諮って）承認する。

一盃森委員、小山委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告について

報告第 29 号 工事請負変更契約の締結について（大河原町立大河原中学校トイレ  
改修工事）

工事の変更内容について、教育総務課長が説明を行った。

鈴木教育長 |（委員全員に諮って）承認する。

（2）専決事務報告

なし

8 議 事

議案第 21 号 大河原町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について  
の点検及び評価について

大河原町の教育の基本的方向（1～12）と令和元年度重点的取組について、生涯学習  
課長・教育総務課が説明を行った。

一 盃 森 委 員	社会教育委員はどのような役割なのか。点検・評価をする上で、意見を述べる機会があるのか。
-----------	---

生涯学習課長	年2回委員会を開催し、教育振興基本計画についてアドバイスをいただいている。
丹羽委員	昆虫展について。民間組織を活用しているが、高齢化が進んでいるようである。何か対策をしているか。
生涯学習課長	昆虫同好会に御協力頂いている。中央公民館の『大河原町民大学』で「大人のための昆虫学入門講座」を開催し、人材育成を図っていきたい。
丹羽委員	ジュニア・リーダー「さくらっ子」の新規加入6名であるが、増加の見込みはあるか。
生涯学習課長	入会者の数は、平成11～15年に比べると減少している。ジュニア・リーダーが小学生に対して勧誘活動を行っているが、中学校と協力して会員数を増やしていきたい。
舟山委員	図書館貸出冊数が増えているのが喜ばしい。閲覧席を利用していた中年男性たちの居場所がなくなってしまったのが心配。
生涯学習課長	雑誌・新聞閲覧は、ハローワークを利用している方が、空いた時間に閲覧席を利用しているようである。学びのへや・閲覧席については、9月1日から再開する予定である。
舟山委員	大河原子育てサポーター「笑（えみ）」について。どのような活動をしているのか。
生涯学習課長	会員の約8割が幼稚園や小学校などの教員経験者であり、子育てをした経験を活かして、子育て中の保護者のサポートを行っている。
小山委員	来年の昆虫展について。ソーシャルディスタンスを保つため、総合体育館など広い場所で行ったら良いのではないかと。図書館について。新型コロナが再流行した場合、また閉鎖になってしまうのか。図書館利用者を限定して、利用することはできないか。
生涯学習課長	昆虫展については、広い場所での開催を検討していきたい。また、各学校でサテライト昆虫展の開催も検討しており、標本を廊下に展示するなど、工夫をして行いたいと考えている。大河原中学校から、ぜひ実施して欲しいと要望があった。図書館は、駅前に立地しているため町外の方が利用しやすい環境にあるため、利用者の限定は難しいと考える。
舟山委員	とても良い取組である。町内の保育園・幼稚園にも出張訪問して欲しい。
生涯学習課長	ぜひ行ってきたい。
舟山委員	教員の勤務時間の短縮について。30分短縮になったのは良かったが、実態はどうか。仕事を自宅に持ち帰っていないか。また、夏季休業中はテレワークなどを導入し、勤務時間削減を行った方が良いのではないかと。
教育総務課長	平成30年度からICカードでの出退勤管理を行っている。勤務時間削減の要因は、勤務時間外の留守番電話の導入やGoogle for Educationの活

	用により、教員に支給されているタブレットからスケジュール管理ができるようになったことが考えられる。校務管理のシステム化を推進し、さらに勤務時間を削減していきたい。テレワークについては、GIGA スクールで環境整備を行っているので、テレワークにも対応できるようにしていきたいと考えている。
山 家 専 門 監	前任の専門監が、正確な時間で出退勤するように先生方に説明をしていたので、勤務時間はだいたい正確であると想定される。
一 盃 森 委 員	防災教育の専門性が求められている。防災教育についての研修が必要になってくると思われるが、先生方の負担を減らせるような方法で、研修を行うことが望ましいのでは。また、コミュニティスクールを活用して先生方の負担を軽減していただきたい。
教育総務課長	オンラインで研修を実施できる可能性があるため、情報教育のハード面を整備して、オンライン研修ができる体制を整えていきたい。
生涯学習課長	コミュニティスクールについては、学校教育支援をしていただける人材を発掘していきたいと考えている。
一 盃 森 委 員	明確にニーズを発信して、町民に知らせるようにすると、町民の方も協力してくれるのではないかな。
鈴 木 教 育 長	情報発信を積極的にして欲しい。
丹 羽 委 員	ケアハウスについて。来年度から県からの補助がなくなってしまうが、継続して欲しい。
教育総務課長	事業開始5年目まで県からの補助は100%であるが、来年度については県の補助率がどの程度になるか未定である。町としては、継続してケアハウス事業を行っていききたいと考えている。
小 山 委 員	町内小中学校の不登校は減少していないようである。先生方にはゆとりを持って児童・生徒に接して欲しい。風通しの良い、地域に開かれた学校運営をして欲しい。
教育総務課長	児童・生徒の不登校率はなかなか下がらない。小学校の不登校率が増えている。中学校の別室登校だけでなく、小学校からの不登校児童の支援が必要。保護者の方や地域の方の協力が必要と考えている。
鈴 木 教 育 長	学校も地域の方の力を必要としているので、充実させていきたい。
小 山 委 員	地域の方の学校支援は増えているのか。
生涯学習課長	増えている部分とそうではない部分があるので、見直しをしていきたいと考えている。

鈴木教育長 | (全員に諮って) 可決する。

## 9 その他

### (1)教育長報告

新聞記事から

- ・学校内でのスマホの持ち込みについて。文部科学省は、小学校は不可、中学校は4つの要件を満たせば持ち込み可能とする方針を決めた。
- ・高校入試の出題範囲について。
- ・名取市の修学旅行の中止について。
- ・東京都多摩市の中学校で、生徒たちに放課後ドリンクバーを地域学校協働本部で実施した事例の紹介。
- ・県内のプール授業中止について。水難事故にならないように、授業で対応方法を教えることが大切である。
- ・新型コロナウイルスの校内感染が約5%で、家庭内感染が多くなっている。
- ・柴田町の水難事故について。

### 1 不登校児童生徒への支援「ゆっくり関係性を再構築する」

在学青少年教育相談員の佐藤秀夫先生が、不登校児童に対して行った登校支援の取組についての事例紹介をした。子どもに寄り添った対応をすることが重要である。

T先生は「学校と家庭との連携」を図ろうと頑張って取り組んだが、保護者・生徒に受け入れてもらえず、「しつこいセールスマン」のようなことをしてしまったと後悔をした。T先生の素晴らしさは、その後の生徒との関わり方を改善しようとした所であり、謙虚さを持っていたことである。

## 2 志教育

### (1)「宿題がある意味」

「やりたくない宿題をする意味はあるのか」という質問に、イチロー先生は大人になるとやりたくないこともやらないといけなくなる。宿題をすることはその訓練であり、好きなことだけをする社会人として難しくなってしまうと、大人になるためのメッセージを送っている。

### (2)「克服する先に『楽しさ』はある」(榎本博明)

イチロー先生は、野球を楽しむという表現はできなかったと言っている。野球をしている時は、苦勞をし努力をしながら次々にやってくる課題を克服していったのだろう。克服することを頑張ることで、勉強や部活の楽しさや面白さが分かってくるのだろう。

### 3 子どもの命を守る

#### (1)「体育活動時における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」

先生方が混乱した現場で、脈があるのか、呼吸をしているかを判断するのは非常に難しい。ためらわずAEDを使用することが大切である。AEDのある場所を、解りやすく整理して周知する。誰もが対応できるように、AEDの使い方の研修を行うことが大切である。

### 4 学力向上

#### (1)『思考力・表現力を評価する算数テスト集-B問題につよくなる』(尾崎正彦)

全国学力調査B問題へ対応できる記述力を育てるためには、授業場面の中で答えの求め方をじっくり考えさせたり、記述させたりする展開を進めなければ、思考力や表現力は育たない。思考力・表現力を評価するためには、記述式のテストを実施すること。思考力・表現力が育つ授業は、4つの「ズレ」を構成すること。1時間の授業場面をレポートで再現する学習を取り入れることである。

#### (2)『国語授業における「深い学び」を考える』

##### ・物語の「自力読み」の学習過程と、「深い学び」の実現(二瓶弘行)

文部科学省が示した「読むこと」の学習過程、①構造と内容の把握、②精査・解釈、③考えの形成、④共有は深い学びの表現の上で画期的である。そして、「自力読み」では、①最も大きく変わったことは何か。②それはどのように変わったか。③それはどうして変わったのか、の大きな三つの問を持つことが大事だという。

#### (3)子どもの学力差に対応する算数授業づくり(山本良和・中田寿幸)

学力差に対応する「課題提示・課題設定」のあり方については、問題意識を誘発する問題、つまり全員が答えられる、逆に誰も答えられないことから始める。発表ができなくて困っている子に対しては、わかりやすくていい、わからないことを狭く限定して考えたことを表現させることである。

### 5 いじめ問題

#### (1)いじめ法-教師ひとりが抱え込む背景(小野田正利)

#### (2)親として「普通の要求」「過剰な要求」か

#### (3)保護者が教師を訴え返す(1)

#### (4)保護者が教師を訴え返す(2)

#### (5)いじめへの対応義務を考える

いじめ問題の対応について、先生方は大変苦慮していると思われる。特に保護者からの要求に対応することに、先生方は疲弊してしまっているのではないか。弁護士な

ど外部の専門家に相談をして、先生方を守ることが必要であると思われる。

## 7 その他

### (1) 令和2年度就学時健康診断の実施

市町村の教育委員会が実施主体であり、昨年度から教育委員会主体で実施したが、近隣の市町は身体検査を教育委員会、発達検査を各学校で実施している状況である。今年度から大河原町も他市町と同様の方法で実施することとした。

### (2) 大河原中学校ボランティア部の活動

今年度から創設された部活動であり、7名中6名が参加した。不登校の生徒1名も参加し、このことがきっかけで学校へ登校することができるようになった。本人の自信に繋がり、登校できるようになったことは、とても喜ばしいことである。

### (3) 中学校総合体育大会代替交流試合

令和2年7月23・24日に実施された交流試合の様子を観てきたが、生徒たちは非常に頑張っていた。

### (4) 金ヶ瀬小 山中教諭の体育「走り高跳び」の授業

山中教諭と子どもたちとの信頼関係を感じた授業である。学校休業で子どもたちの体力が低下している。体育の授業で骨折してしまう子どもたちが出てきてしまうのではないかと。体力の回復が急務であると感じた。

舟 山 委 員	AEDがすぐに使えるようになるには、3回くらい復習しなければならないのではないか。先生方にAED講習を実施しているか。
教育総務課長	大河原消防署へ依頼して、7月中旬に金ヶ瀬小学校でAED講習を実施した。新型コロナの影響で、参加人数が最大8名までだったので、各学校の養護教諭の方に参加していただき、養護教諭から先生方へ教えていただくようにした。AEDをできるように各学校で研修を行っていただきたい。

## (2) 課長報告

教育総務課長	9月行事予定表、小・中学校の修学旅行について説明する。
生涯学習課長	9月行事予定表、地域学校協働活動第1回運営委員会について説明する。
山家専門監	大河原町児童・生徒の学力の現状（令和2年6月26日実施の学力調査の結果について）、新型コロナウイルス感染症防止による臨時休業期間中の生活アンケート集計結果、町内小・中学校において感染者が発生した場合の臨時休業等について説明する。

一 盃 森 委 員	算数・数学について2つの山があり、学力に差が出てきてしまっている。勉強できる家庭環境なのか心配である。就学援助を受給している世帯はどれくらいあるのか。また、新型コロナの影響で増えているのか。
山 岸 係 長	就学援助受給世帯は年々増加しており、新型コロナの影響で来年度はさらに増えることが予想される。
一 盃 森 委 員	2つの山の平均化・個別対応・家庭環境に配慮した指導が必要になってくるのではないかと。特に中学3年生が振るわなかった。12月までにどれくらい挽回できるのか。受験生であり将来に関わるので心配である。
小 山 委 員	臨時休業後は得意な勉強を要領よくしてしまい、家庭学習でも短時間で簡単な勉強をしてしまっている様子である。少人数学習で基礎知識の底上げをするなどの対策が必要ではないか。
鈴 木 教 育 長	校長会でも、危機意識を持った指導をするように話をする。

## 10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回は令和2年9月18日（金）午後2時から開会を開催する。

## 11 閉会宣言 午後4時37分

令和2年9月18日

署名委員

署名委員